



学校だより よつわ

教育目標「進んで学び 生き生きと活動する子ども」

柏崎市立田尻小学校 No. 5 (R6. 9. 26)

田尻小ホームページ : <https://www.kenet.ed.jp/tajiri/tayori/>



小学校1年生を交通事故から守る黄色のワッペン

～交通事故が増える秋 ルールを守って安心安全～

校長 ○○ ○○

スクールバスを配置している学校長として、夏の終わりに、1日かけ、安全運転管理者講習を受講してきました。柏崎を中心とする安全運転管理者が柏崎市文化会館アルフォーレの大ホールに集まっていた。柏崎市での法定講習会は年1回ということで多くの皆さんが集まっていた。講習の中で小学1年生に配付されている黄色のワッペンの話が出てきました。そして、このワッペンの取組は60年目になったと聞き、その経緯を調べてみようと思いました。事業を発案した元富士銀行（現・みずほフィナンシャルグループ）取締役・松岡修さんでした。この取り組みを始めるきっかけは、発案者が1964年末頃に読んだ新聞記事でした。交通事故で我が子を失った母親が、当時の首相に事故撲滅を訴えた手記だったそうです。その当時は、車社会の到来によって事故が急増し、1959年以降、年間の死者が1万人を超える年が続いていました。当時、同行の広報を担当していた発案者は、ドライバーの目に付くよう、子供たちに「黄色い腕章」を身につけてもらうことを考えました。全国的なキャンペーンになることを目指し、行員たちで、「よい子に注意、よい子も注意」という標語に決めました。ドライバーだけでなく、子供たちにも意識をもってもらいたいという思いを、13字に込めたそうです。交通安全協会や小学校長会などの全国組織を回って協力を取り付け、1965年4月、同行の支店がある全国の新小学1年生約75万人に腕章が配布されました。1974年からワッペンに替わり、これまでの配布数は約7186万枚に上るそうです。黄色いワッペンの事業は社を超えて、現在はみずほフィナンシャルグループと損害保険ジャパン、明治安田生命保険、第一生命保険の4社が共同で実施しています。ワッペンには傷害保険がついており、新1年生が登下校中に事故に遭った場合、最高50万円の保険金が支払われます。60回目となる今年は記念事業として、人気アニメ「ポケモン」のキャラクター「ピカチュウ」がデザインされています。

話は変わりますが、毎朝、登校してくる児童の安全確保のため、学校近くの信号のない交差点に立つことにしています。班長を中心に、並んで登校してきていますが、時折、広がったり、列が離れ、縦長になったりしています。私はいつも、「班長ご苦労様、ありがとう」と班長に特に声をかけています。班長といえども、小学生、班員の命を守る行動を心がけてもらうためには、自覚を促したいと思っています。私を含め、車を運転する者は、道路は歩行者優先、横断歩道では歩行者がいたら止まるルールの徹底をお願いいたします。新潟県は、車の一時停止率は全国最下位と聞きました。歩行者優先を心がけたいと思います。